

文化・芸術

「森の影」

1957年、リトグラフ、紙
57・1枚×42・2枚

瑛九 (1911～60年)

宮崎県に生まれた瑛九(本名・杉田秀夫)は、15歳から美術雑誌に評論を寄せ、1936年、フォート・デッサン集「眠りの理由」によって鮮烈なデビューを果たしました。51年には、既成の画壇や公募団体を批判し、デモクラート美術家協会を創立。豊郷、池田満寿夫、河原温ら若い世代にも大きな影響を与えます。オノサト・トシノブとは戦前から親交を結び、互いの地元に滞在して制作しています。

油彩、フォート・デッサン、コラージュ、版画と、常に実験的な制作を続けた瑛九が、戦後集物的に取り組んだのがリトグラフです。下絵を用いず、頭に浮かぶイメージを画面いっぱいに描き連ねたといいます。本作では、自然物とも人工物ともつかないかたちと色彩が重なり合い、森の中で生命がうごめくようです。本展では、黒い線のみでイメージを重ねさせた銅版画集とあわせてご覧下さい。

(小此木)

大川美術館特集展示
「シュルレアリスムの時代」から

《名画の扉》

